

平成31年度東京都立清瀬高等学校 経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

①学習活動

- ア 生徒の進路希望に合わせ、3年間の教科指導計画を策定し、授業担当で、綿密な共通理解を図り、内容・指導レベル等について質・量とも適切な授業を教科として提供できた。定期考査の共通問題化は一部の教科においては課題が残る。
- イ 「学力スタンダード」に対応した年間授業計画を作成し、明確な目標に基づいた指導と評価を行うことで、指導内容・方法の改善が図れた。
- ウ 各教科において模擬試験の分析を行い、生徒の弱点を把握し、その後の授業において改善を図れた。模試分析の結果を職員全体で共有することが今後の課題である。
- エ アクティブ・ラーニング推進校として、AL型授業を積極的に展開し、生徒が能動的に授業に参加する姿勢の育成に努めることができた。また、各教科による月1回の公開授業を校内および校外に対して実施した。
- オ 次期学習指導要領に対応した教育課程の検討・編成を進めることができた。完成は次年度1学期中を目指す。
- カ 家庭学習の習慣を身に付けさせ、自学の習慣を定着させることに努めたが、来年度以降も引き続きの課題である。また、チューターを活用し自主学习を促進した。
- キ OJTとして教科内外を問わず、授業参観を全教員で実施し、教員相互の授業力の向上を図れた。また、指導教諭等、他校の授業を積極的に見学し、教科指導方法の改善に努めることができた。
- ク オリンピック・パラリンピック教育を推進し、体力の向上に努めることができた。
- ケ 海外学校間交流推進校として、海外の学校と交流し、語学力と豊かな国際感覚を養うことができた。

②進路指導

- ア 進学指導研究校として、国公立大学、難関私立大学、GMARCHといわれる大学を中心とした生徒の第一志望校合格を目指し、進路指導部が主導的立場で、各学年と連携を図りながら、組織的な進路指導の充実を図れた。
- イ 進路シラバスに沿った組織的進路指導に努めたが、生徒の第一志望校への進路実現を図れない生徒も出た。
- ウ ポートフォリオ作成等のためにクラッシーの組織的な活用が遅れた。来年度以降も継続課題である。
- エ 進路希望実現に向け、進路意識を高め、主体的な進路選択ができるようにキャリア教育を進めることができた。

③生活指導

- ア 社会人として必要な礼儀やマナーを指導し、生徒の自律心を磨き、国際的にも通用する社会性を高めた。
- イ 遅刻、頭髪、制服指導は、生活指導部が中心となり、学年、家庭と連携し、組織的、継続的に取り組んだが、遅刻者数の増加や制服の着こなし等は課題が残る。
- ウ 時間厳守を徹底し、学習と部活動等との両立ができるはじめある生活習慣の確立に努めたが来年度以降も課題。
- エ 学校行事において生徒の主体性を育み、委員会主体で運営できる組織的な学校行事を進めることができた。
- オ 道徳の指導を充実させ、奉仕や思いやりの心と公共心を育成し、健康で安全な生活に必要な能力と態度を育成することに努めたが、来年度以降も継続して思いやりの心を育む必要がある。
- カ 自らが自己の安全を確保できるよう指導し、合わせて地域社会への共助、貢献する心を育てることができた。

④特別活動・部活動

- ア 障害のある児童・生徒との交流を通じ、多様性の尊重、障害者理解といった心のバリアフリーを育てることができた。
- イ 読書感想文コンクールや書評合戦を実施し、読書活動を推進することができた。
- ウ 生活指導部、学年及び部活動顧問が連携して部活動加入を促進し、各部活動の活性化・充実を図れた。
- エ 部活動顧問も生徒の学力を把握し、担任や教科担任と協力し、生徒の学力向上の支援に努めることができた。
- オ スポーツ特別強化校、文化部推進校として、指定部活動の一層の強化と、他の部活動の活性化が図れた。
- カ 部活動を通じて、主体的に行動する力を養い、地域社会に貢献する態度を育成することができた。

キ 文化・スポーツ等特別推薦の実施により、部活動の活性化が図れたが、応募倍率の低下が課題である。

⑤健康・安全

- ア 学校保健計画に基づき、保健委員会が中心となって生徒の健康の保持増進を図り、安全確保を徹底できた。
- イ 教育相談の機能をより充実させ、生徒の心と身体の悩みに対応することに努めたが、問題行動を防止することができないことがあった。教育相談の機能の充実は来年度以降も継続課題である。
- ウ 宿泊防災訓練、薬物乱用防止教室、セーフティ教室等を活用し、自他の命の大切さを考えさせることができた。
- エ 都の改修計画を見据えながら、経営企画室が中心となった施設・設備の老朽化対策を行うことができた。

⑥広報活動

- ア ホームページの更新をほぼ毎日行い、本校の教育活動をタイムリーに発信できた。
- イ 学校説明会・学校見学会、校外での学校説明会・出前授業・塾訪問等において全教職員で広報活動ができた。
- ウ 学校説明会と学校見学会において、生徒が自主的・主体的に清瀬高校をアピールする姿勢を育成できた。
- エ 地域社会や中学校と部活動や生徒会活動等で連携し、地域に密着した教育活動を行うことができた。

⑦学校運営

- ア ライフワークバランスの推進に向け、各種会議の開催時間厳守や50分以内の会議運営に努めたが、開催時間厳守には課題が残る。また、部活動の外部人材の活用を積極的に進め、部活動業務の削減が図れた。
- イ 企画調整会議の内容の周知を徹底し、全教職員が同一の方向に向かった教育活動を行うことには課題が残る。
- ウ 教科会、教科主任会、主幹教諭会議や拡大分掌会を開催し、組織的・継続的な学校運営を行うことができた。
- エ OJTを活用した人材育成を浸透させ、管理職候補者、主幹教諭、主任教諭の育成に努めることができた。
- オ 経営企画室による学校経営参画を進め、企画室職員と教員が連携した学校運営を推進することができた。
- カ 体罰防止、サービス事故防止及び個人情報管理について意識を高め、組織的に安全管理を実施することができた。
- キ あじさいウィーク、学校開放、奉仕活動等を通して開かれた学校づくりを推進することができた。

(2) 重点目標への取組と自己評価 (() 内数値は H30 実績)

①学習指導—組織的、計画的な教科指導の充実

- ア 1、2年生の自学時間：1日平均120分以上(95分) 【今年度】 42分
- イ 授業満足度：80%以上(67.5%) 【今年度】 71.0%
- ウ 長期休業中の開講講座数90講座以上(87講座) 【今年度】 60講座

②進路指導—国公立、私大難関大学等第一志望校への進学実現

- ア 国公立大学現役合格者数：20名以上(12名) 【今年度】 11名
- イ 難関私立大学現役合格者数：10名以上(7名) 【今年度】 14名
- ウ GMARCH 現役合格者数：80名以上(43名) 【今年度】 73名

③生活指導—自律した生活習慣の確立

- ア 生徒の学校生活満足度：90%以上(85.6%) 【今年度】 87.4%
- イ 交通事故：0件(0件) 【今年度】 0件
- ウ 年間遅刻者数：1500回以下(1887回) 【今年度】 1830回

④特別活動・部活動—気力、体力の充実と向上及び学習と部活・行事との両立

- ア 図書貸出数：1200冊(1036冊) 【今年度】 1231冊
- イ 部活動参加者数：98%以上(96%) 【今年度】 93%
- ウ 部活動都ベスト32以上の成果：12部(10部) 【今年度】 8部

⑤広報活動—清瀬高校の教育活動、魅力を広く紹介するための広報活動の充実

- ア ホームページ更新回数年間：365回(316回) 【今年度】 458回
- イ 学校説明会参加者数：3200人(3047人) 【今年度】 3026人
- ウ 入試倍率：推薦3.00倍以上(2.07倍) 【今年度】 2.24倍
一般1.40倍以上(1.34倍) 【今年度】 1.00倍

2 次年度以降の課題と対応策

- (1) 生徒の第一志望校への進路実現を図る。特に国公立大学合格者を増やす。
- (2) 「アクティブラーニング推進校」として、積極的にAL型授業の研究を進め、全教員がAL型授業に取り組む。
- (3) 「海外学校間交流推進校」として、海外研修や外国人生徒の受け入れを積極的に進め異文化交流の機会を増やす。
- (4) 学習、行事や部活動等の学校生活を通じて、自立できる生徒を育てる。